

- 1 保護者と連携した家庭での読書の推進
  - 期間中 1~2 冊読むことを目標にして、ノーマディアデーでの読書を勧める。
  - ファミリー読書を月 1 回実施する。
  - 図書便りを発行し、学校での学園生の読書の現状を伝える。  
※好んで読書する多い学園生などを紹介する。
  - 金曜日の貸し出しを推奨し、土曜日・日曜日の読書の啓発を図る。
  - 読書貯金通帳を効果的に活用する。
- 2 地域の方々へのあいさつの推進
  - あいさつがしっかりできた学園生に対して、その場での称賛をタイムリーに行う。
  - 朝の会や帰りの会等で登校時の様子、今日一日の様子を振り、今日のあいさつはどうだったのか考える。
  - 大人からあいさつを根気強くする。
  - 懇談（通信）等でも話題にする。
  - 縦割り班であいさつレンジャー（6 人~8 人程度）を作り、活動する。  
※あいさつレンジャーは、自分もあいさつをしながら、良いあいさつをする学園生を紹介する。
- 3 家庭での机、棚、トイレのスリッパ等の整理整頓
  - 学級活動などの授業をとおして、学級や家庭において身の回りの環境を整えることの大切さを考える。
  - 約束ごとを家庭内で決め、学級懇談や通信の返信をとおして家庭での状況を把握する。
- 4 家庭学習の定着
  - 学校や家庭において、学習の手引きを見直し、予習と復習のやり方を再確認する。
  - 宿題や課題の見届けを家庭にお願いし、通信の返信や生活ノートで家庭の状況を把握する。
- 5 昼休みの過ごし方について
  - 教師による見届けを行い、昼休みの様子を通信等で保護者に伝える。
  - みんなで遊ぶ日でいろいろな人と様々な遊びができるように工夫する。（学級での話し合い等）
  - 他の遊びを担当が紹介する。
- 6 目配り・気配りのきいた授業
  - 参観日等での授業参観をとおして、その都度気付いたことがあれば、意見をいただけるように日頃から十分な意思の疎通を図るように努める。
- 7 業間の時間の有効的な使い方
  - 保護者への丁寧な説明を通信や懇談等で行う。  
※水泳の時期の更衣や移動時間、体力づくりなど年間を通して計画を立てていることを伝える。
- 8 学校支援ボランティアの活性化
  - PTAが主体となって活動する体制づくりを行う。※ 現在、作成中
  - HPや通信等による呼びかけ（学校がお願いしたいこと・学校にしてほしいこと）
- 9 玄関先の掲示物の確認
  - 新聞掲載等の情報を集める体制づくりをする。  
※学校職員、学園生、保護者の協力を呼びかける。
- 10 夏休みチェックカードの見直し
  - 内容を精選し、1 枚にする。